

月刊

# ENGO

5月号

2015年5月1日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦（香里教会）

連絡先：TEL：072-834-3800

FAX：072-833-9271

e-mail: [engo@osaka.catholic.jp](mailto:engo@osaka.catholic.jp)

## 5年目突入 ボランティアベースの今

2011年3月11日から4年を迎え、ボランティアベースは、今でも変わらず各地の被災された方に寄り添い続けています。

当初は、ボランティア宿泊の拠点となり、支援物資の供給基地となり、被災された方の駆け込み寺でした。現在もその動きには変わりはありませんが、当時に比べると全体的にその量は減り、質が問われるようになってきています。また課題も当時とは変化してきており、その対応の複雑さに苦慮されています。

### 現在のボランティアベース

宮城県：石巻・米川

岩手県：大船渡・釜石・大槌・宮古

福島県：原町・いわき・福島



大船渡沿岸部の復興にはまだ時間が必要

地域によってその課題は様々であり、またその町の特性によっても対応は違い、一つにまとめるものではありません。しかしそこに住む人々の心の不安は同じで、キリスト者として私たちは“寄り添う”者であ

り続けることが共通したあり方です。実際にどのベースにおいてもお茶などの“サロン”活動を通し、その場所で少しでも癒し、励ましを感じて頂くために工夫を凝らしています。かつての支援物資をメインにしていた時から、今は心への支援が必要であり、また現地の人々がまた働き、今後自立して生活できるための

きっかけ作りになるための存在としてボランティアは各地で今も働いています。しかし、ボランティアの減少により、その活動も厳しい状態におかれています。どうぞ、今後もボランティアの派遣の協力をお願いいたします。

## ENGO de おいで ツアー開催

2015年3月23日～25日にかけて、東日本大震災の復興支援に携わっている各ベースのスタッフを大阪に招いて、休暇と研修を兼ねた「ENGO de おいで ツアー」を開催しました。日頃、自分たちの活動地域から出ることなく、復興支援に尽力されているスタッフに活動地域から離れた場所での休暇と阪神淡路大震災から学ぶ研修の場の提供は、まさに「E（遠方から）N（仲間に）G（元気を）O（大阪から）」の本質的な活動です。被災地各地5ベース総勢11名のスタッフが参加してくださいました。

一日目は、何よりもボランティアベーススタッフの肩に載せている日頃からのプレッシャーを取り去ることから始めました。一見遊んでいるように感じられますが、新たな一歩を踏み出すため、また新たな発想

で進むためには大切な時間でした。

- ① カトリック大阪大司教区本部訪問。  
自己紹介と各ベースの情報交換、司教館施設内・工事中の大聖堂見学。
- ② 玉造からなんば、アーケード街を散策後、「なんばグランド花月」落語・漫才・大道芸・吉本新喜劇鑑賞。



新喜劇鑑賞後の笑顔の一枚

- ③ 道頓堀「づぼらや」でフグ鍋やフグ刺など、東北では食べられない逸品に舌鼓。

二日目は、研修日。

- ④ 神戸市にある「人と防災未来センター」で震災状況を学び→「(たかとり教会と)たかとりコミュニティーセンター」では震災後に始まった地域と連携した新たな歩み→「有馬湯泉神社」では神社の宮司さんの阪神淡路大震災後、地域の宗教者とともに復興支援を行った働きとその思いを聞き、学びました。

三日目は、このツアーの最終日。

- ⑤ 午前に有馬温泉を観光したあとは、有馬湯泉神社の社務所にて今まで学んだことをふまえて、今後の復興支援活動について思うことを宮城・岩手チームと福島チームに分かれて分かち合い・分析・整理を通して情報の交換や復興支援に対する思いなどを共有しました。

\*簡単なまとめ\*

《宮城・岩手チーム》

時間の経過とともにスタッフに求められるもの、地域ニーズも複雑に変化し、それに合わせてスタッフも変わっていかなく

ばならない。そんな中で自分たちのことが後回しになってしまっており、健康・精神状態は決して良いわけでもないが、被災地の人々のことを思うと自分のことを後回ししてしまう。長い支援にはそれが逆に問題である。と話し合われました。

《福島グループ》

「どこまでやるのか。どこまでやれるのか」という点に話がまとまっていきました。原発のことは短時間で解決できず、何十年と続く問題で、そこに生活する人々、避難された方々のことなど、千差万別であり、悩みは多く、複雑で自分たちはどこまでやれるのかどこまでやるのかを強く考えていました。それでもやり続けるために……。一つずつ課題に向き合うことが大切でしょう。と意見が出されました。

「ENGO de おいで ツアー」は、スタッフのリフレッシュという面もありましたが、同じ苦しみや悩みを持つ各ベースの横



温泉神社の宮司さんの講話と学習

のつながりを強くし、大阪 ENGO と各ベースがより親密につながる良い機会にもなりました。今後の働きのためにも、今までにない後方支援の一つと位置付けて、現地で人々を支えるスタッフの後方支援を続けていきたいと感じています。

私たちの気持ちを最前線で繁栄し続けてくれている、現地のスタッフにも大きな支援は、復興支援の大切なことですので、皆様の支援もよろしくお願ひします。

## ボランティア支援制度

被災地は一人でも多くのボランティアを求めています。大阪教区 ENGO プロジェクトは下記の表に従い派遣者に対して①申し込み ②事前面接 ③事後報告書の提出により交通費等の補助を、皆さまの寄付金から拠出させていただき、多くの方が被災地に赴きやすいようにしています。複数回現利用可です。どうぞ御利用下さい。

## パネルの貸出し

ENGO プロジェクトはパネルの貸し出しも行っています。今までには区民センターや社会福祉施設を始め、学校・幼稚園、教会などでも広く活用されており、その他の学習会や、種々の催し物でもご使用いただいています。ご利用希望の方はお気軽にご連絡下さい。 (A3版 28枚セット)

\*尚、震災当時を忘れない事を目的に作成されましたので、現在の状況を映したものはございません。

### ボランティア支援制度

(交通費等補助支援制度)

1週間(往復の日程を含み、  
実質作業5日以上)

条件：①事前申し込み&面談  
②事後報告書提出

補助：30,000円  
(報告書提出後振込)

2週間(往復の日程を含み、  
実質作業10日以上)

条件：①事前面談&面談  
②事後報告書提出

補助：50,000円  
(報告書提出後振込)

\*問合せ・申込みは ENGO プロジェクトまで

面談・対応：ENGO プロジェクト担当司祭(神田神父・松村神父・春名神父)